

共同企画

共同企画5

薬剤関連情報の記録における課題 ー医薬品の履歴の在り方を考えるー

2021年11月19日(金) 16:30 ～ 18:00 C会場 (2号館1階211)

[2-C-2] 薬剤関連情報の記録における課題 ー医薬品の履歴の在り方を考える

Problems with drug-related records - Think about the history of medicines -

*池田 和之¹、木村 雅彦²、土屋 文人³、高田 敦史⁴（1. 奈良県立医科大学附属病院薬剤部、2. 一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会、3. 一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構、4. 九州大学病院）

*Kazuyuki Ikeda¹, Masahiko Kimura², Fumito Tsuchiya³, Atsushi Takada⁴（1. Department of pharmacy, Nara Medical University Hospital, 2. Japanese Association of Healthcare Information System Industry, 3. Research Organization for Medication Safety Use, 4. Kyushu Univ. Hosp）

キーワード：drug-related records, drug history, Prescription, Dispensing, Taking medicine

医薬品に関連する情報は、「もの」に付随する情報から患者への服薬指導など「ひと」に付随する情報まで幅広い。昨年度の共同企画では、「薬剤情報の連携のこれからと課題」として薬剤師法等の改正に伴う薬剤関連の記録について議論した。その中でも特に医薬品の履歴（以下、薬歴とする）に関する課題が取り上げられた。一方、令和2年に公表された政府の「データヘルス集中改革プラン」でも、電子処方箋の仕組みの構築や自身の保健医療情報を活用できる仕組みの拡大など、薬剤領域の事項が取り上げられている。さらに、本年10月にはマイナンバーカードによる保険資格確認の基盤を利用した薬剤情報の連携も予定されており、これらからも「薬歴」の在り方を考える必要がある。本来「薬歴」とは、診療報酬の薬剤服用歴管理指導料算定のもととなる薬剤服用歴であるが、広義の解釈では患者の医薬品に関する履歴と理解できる。したがって患者の医薬品に関する履歴には、1）医師が発行した処方箋の履歴、2）処方箋により薬剤師が調剤を行った調剤歴、3）調剤の結果患者が受け取った医薬品を服用した服用歴がある。さらに4）病院や薬局等が診療報酬の請求を行ったレセプトの薬剤履歴、5）お薬手帳など PHRとして患者が個人で管理する薬歴、6）病院等に持ち込んだ薬品の記録である持参薬歴など様々ある。これら薬歴は、医療機関内では処方歴と調剤歴が連携していないにもかかわらず持参薬歴は部分的に連携し処方歴と同じ履歴として管理されている。

今回のワークショップでは、医療現場の有識者からこれら現状の課題や問題点を提示し、あわせて電子カルテベンダ（キャノンメディカルシステムズ株式会社、日本電気株式会社、富士通 Japan株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社）から事前に提示した薬歴に関する調査への回答を示す。その後これら内容を踏まえ、薬品の履歴に関する課題とあるべき姿をディスカッションしたい。

薬剤関連情報の記録における課題

-医薬品の履歴の在り方を考える-

池田 和之^{*1}、木村 雅彦^{*2}、土屋 文人^{*3}、高田 敦史^{*4}、
兵 昂^{*5}、岡田 義道^{*6}、木村 潤^{*7}、佐藤 裕也^{*8}

*1 奈良県立医科大学附属病院、*2一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会、

*3 一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構、*4 九州大学病院、

*5 キヤノンメディカルシステムズ株式会社、*6 日本電気株式会社、

*7 富士通株式会社、*8 日本アイ・ビー・エム株式会社

Problems with drug-related records

- Think about the history of medicines -

Kazuyuki Ikeda^{*1}, Masahiko Kimura^{*2}, Fumito Tsuchiya^{*3}, Atsushi Takada^{*4},

Takashi Hyo^{*5}, Okada Yoshimichi^{*6}, Jun Kimura^{*7}, Sato Hiroya^{*8}

*1 Nara Medical University Hospital,

*2 Japanese Association of Healthcare Information System Industry,

*3 Reserch Organization for Medication Safety Use (ROMSU),

*4 Kyushu Univ. Hosp. Medical Information Center,

*5 Canon Medical Systems Corporation, *6 NEC Corporation,

*7 Fujitsu Limited, *8 IBM Japan, Ltd.

In last year's project, we discussed "Future and issues of drug information collaboration.". Among them, the issue of drug history was taken up. The digitization of medical care such as electronic prescriptions is progressing. Furthermore, the digitization of drug history is progressing. Originally, the drug history is the basis for calculating medical fees. However, in a broad sense, it is a history of the patient's medicines. This time, we will present the issues and problems of drug history from experts in the medical field.

Keywords: drug-related records, drug history, Prescription, Dispensing, Taking medicine

1. 緒言

令和2年7月30日に厚生労働省から発表された「新たな日常にも対応した データヘルスの集中改革プランについて」¹⁾では、「オンライン資格確認等システムやマイナンバー制度等の既存インフラを最大限活用しつつ、令和3年に必要な法制上の対応等を行った上で、令和4年度中に運用開始を目指し、効率的かつ迅速にデータヘルス改革を進め、新たな日常にも対応するデジタル化を通じた強靱な社会保障を構築する。」を基本的な考え方として、3つのアクションプランが示されている。

ACTION1: 全国で医療情報を確認できる仕組みの拡大

ACTION2: 電子処方箋の仕組みの構築

ACTION3: 自身の保健医療情報を活用できる仕組みの拡大

この中には、薬剤に関連する事項も多く含まれている。特に、薬剤に関する情報の中でも医薬品に関する履歴(以下、薬歴とする)については様々な履歴が存在し、これらが電子的に保管され連携されようとしている。

一方、医薬品に関連する情報は、医薬品としての「もの」に付随する情報からその医薬品を使用した患者の情報や患者への服薬指導の記録など「ひと」に付随する情報まで幅広い。昨年度の共同企画では、「薬剤情報の連携のこれからと課題」²⁾として薬剤師法等の改正に伴う薬剤関連の記録について議論した。その中では、「電子カルテに保管されている処方箋お発行履歴と調剤結果の履歴は異なる」「電子カルテでは医

薬品に関する履歴が保管されていない」など、薬歴に関する課題が大きく取り上げられた。

2. 医薬品の履歴とは

本来「薬歴」とは、診療報酬の薬剤服用歴管理指導料算定のもととなる薬剤服用歴である。しかし、広義の解釈として患者の医薬品に関する履歴と理解・利用されている。広義の解釈から考えられる患者の医薬品に関する履歴には、1) 医師が発行した処方箋の履歴、2) 処方箋により薬剤師が調剤を行った調剤歴、3) 調剤の結果患者が受け取った医薬品を服用した服用歴があり、さらには4) 病院や薬局等が診療報酬の請求を行ったレセプトの薬剤履歴、5) お薬手帳など PHR として患者が個人で管理する薬歴、6) 病院等に持ち込んだ薬品の記録である持参薬歴など様々ある。さらにこれら薬歴は、医療機関内では処方歴と調剤歴が連携していないにもかかわらず持参薬歴は部分的に連携し処方歴と同じ履歴として管理されている。

一方、医薬品が個々の患者に使用されるには、①患者への薬物治療を行うために医師が発行する処方箋の履歴(処方歴)、②処方箋にもとづき薬剤師の疑義照会等を経て調剤した結果の履歴(調剤歴)、③調剤された医薬品を患者が服用(使用)した履歴(服用歴)の流れとなっている。

さらに、医薬品には、医師等の処方箋により患者が入手可能な「処方箋医薬品」の他、薬剤師の対面での指導の下販売できる「要指導医薬品」、いわゆる市販薬として「第一種・第二種・第三種医薬品」などがある。

3. 電子カルテシステムにおける薬歴の現状

今回、共同企画開催にあたり、電子カルテシステムにおける個々の患者における医薬品関連の情報の保管・管理や表示等について、登壇ベンダ(4社)への調査を行った。

「処方オーダーや調剤結果情報などの薬剤関連の情報をどこで入力(取得)していますか」については、処方や注射オーダーおよびそれらの実施情報については、4社全てが「電子カルテで作成」を回答した。一方、院内の調剤情報や後発医薬品への変更情報は、「部門システムからの連携」や「取得していない」との回答が多かった。

表1 薬剤関連の情報入力(取得)の状況(複数回答可)

	電子カルテで作成	部門システムからの連携	取得していない	その他
処方オーダー	4			
注射オーダー	4	1		
処方実施	4			
注射実施	4	1		
処置オーダー	3			1
処置実施	3	1		1
手術記録	3	3		1
検査(造影、内視鏡など)記録	1	2		1
透析記録	1	3		1
持参薬情報	4	3		
院内の調剤情報		2	2	
後発医薬品への変更	1	2	2	1

また、「電子カルテ内では、以下の薬剤関連の情報をどのように閲覧できますか」については、処方や注射オーダーおよびそれらの実施情報については、4社全てが「カレンダー形式」を回答した。また、「単票形式」の回答も多く、検査や透析などの記録は、「Web参照」の回答もみられた。

表2 薬剤関連情報の閲覧(表示)の状況(複数回答可)

	カレンダー形式	単票形式	Web参照	PDF	取得していない	その他
処方オーダー	4	4				
注射オーダー	4	3				
処方実施	4	2				
注射実施	4	3				
処置オーダー	3	3			1	
処置実施	3	3			1	
手術記録	2	3			1	
検査(造影、内視鏡など)記録	2	3	1		1	
透析記録	1	2	1		1	
持参薬情報	4	4	1			
院内の調剤情報			1		3	
後発医薬品へ	1	1			2	1

さらに、「今後医薬品関連で連携が見込まれる、お薬手帳、オンライン資格確認からの薬剤情報、電子処方箋にもとづく調剤結果情報などを電子カルテ内でどのように取り扱う予定

ですか」については、閲覧(参照)可能にするとの意見が多かった。

また、「医薬品の履歴管理に関して課題を感じている点」については、処方・注射以外で使用する薬品のフレームワークが必要ではないか、調剤歴の管理の課題(服薬管理する上で、一包化等の情報が管理できていない)、OTC薬の薬歴の必要性などに関する意見があった。

4. 薬歴の課題とあるべき姿

前述の通り、医薬品の履歴には多数ある。特に、電子的な医薬品履歴の氾濫が予想されるこれからの世界では、その履歴が医薬品の使用の流れの中で「処方歴」「調剤歴」「服用歴」のどれにあたるかを考慮して取り扱うことが重要である。特に、オンライン資格確認からの薬剤情報は、データソースがレセプト情報のため、1)リアルタイムの情報ではない、2)返戻等により実際に使用した医薬品が表示されない場合がある、3)処方箋と同じ用法やコメントは表示されない、4)調剤日でまとめられるため漸増・漸減などの表現がない、5)処置や検査で使用した医薬品も表示される(ただし、償還されるもののみ)、6)対象レセプト以外の情報は表示されない、などに注意が必要である。そのため、これら情報は、参照情報として取り扱うにとどめる必要がある。

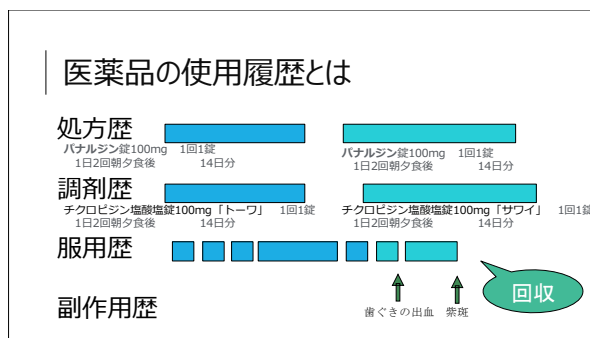


図1 医薬品の使用履歴とは

さらに、医療現場では処方箋による医薬品の使用だけでなく、手術や処置、検査などでも医薬品を使用している。さらに、昨今のセルフメディケーションの推進等により、患者は医療現場以外でも市販薬等の医薬品を使用している。したがって、これらも含め医薬品の履歴の管理の在り方について検討すべきである。

加えて、薬剤師による調剤履歴については、患者に使用する医薬品を直接渡し、指導しているものとして、より詳細な医薬品の履歴情報(ロットや有効期限)を保管・管理することで、より安全・安心な薬物療法を提供できると考える。

参考文献

- 新たな日常にも対応したデータヘルスの集中改革プランについて。厚生労働省。令和2年7月30日。
[<https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000653403.pdf> (cited 2021-Aug-11)].
- 池田和之: 薬剤情報の連携のこれからと課題, 第40回医療情報学連合大会プログラム・抄録集。2020; 5-C-1.